

安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）
第3回策定委員会

日 時：令和7年年6月26日 午前10時から正午まで

場 所：へきしんギャラクシープラザ 講座室

<委員出席者> 14名

※欠席：鳥居貴之委員、鳥居こずえ委員、浮森和美委員、神谷浩委員

- 【委員長】 野村 富雄 （社会教育委員）
【副委員長】 石川 清幸 （社会教育委員）
【委員】 犬塚 伊佐夫（社会教育委員）
鳥居 貴之 （社会教育委員）欠席
東 小百合 （社会教育委員）
鳥居 こずえ（社会教育委員）欠席
西川 勝幸 （社会教育委員）
伊藤 朝野 （社会教育委員）
荒井 和夫 （社会教育委員）
神谷 有弘 （社会教育委員）
浮森 和美 （社会教育委員）欠席
神谷 浩 （社会教育委員）欠席
深谷 真弘 （市民 スポーツ推進審議会委員）
香村 恵介 （市民 スポーツ推進審議会委員）
河方 真司 （市民 公募市民）
小森 義史 （市民 公募市民）
高山 智子 （市民 公募市民）
大見 サキエ（市民 公募市民）
【助言者】 大村 恵 （愛知教育大学）

<事務局等出席者> 7名

- 加藤 浩明 （生涯学習部 部長）
大見 徹也 （生涯学習部 生涯学習課 課長）
松元 淳一 （生涯学習部 スポーツ課 課長）
廣村 郁夫 （生涯学習部 生涯学習課 課長補佐）
近藤 真弘 （生涯学習部 スポーツ課 スポーツ振興係 係長）
浅野 雄一郎（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 専門主査）
夏目 悠平 （生涯学習部 スポーツ課 スポーツ振興係 主査）

<委託業者> 2名

- 大谷 優 (株式会社 創建 政策研究第2グループ グループマネージャー)
西澤 薫 (株式会社 創建 政策研究第2グループ 研究員)

<次第>

- 1 市民憲章唱和
- 2 委員紹介
- 3 議 事
 - (1) 作業部会(ワークショップ)の結果について
 - (2) 計画の骨子案について
- 4 その他

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 安城市生涯学習推進計画(生涯学習・スポーツ)策定委員会名簿
- ・ 作業部会(ワークショップ)レポート(資料1)
- ・ 安城市生涯学習推進計画(生涯学習・スポーツ)骨子案(資料2)

<議事概要>

- 1 市民憲章唱和
- 2 委員紹介
 - ・ 事務局より、今年度より新たに委員となった5名の紹介を行った。
- 3 議事
 - (1) 作業部会(ワークショップ)の結果について
 - ・ 事務局より、作業部会(ワークショップ)の開催概要について説明を行った。
 - ・ 次いで、委託業者より作業部会(ワークショップ)の結果について説明を行った。

(河方真司委員)

- ・ 第1回ワークショップに参加した。参加するまでは不安だったが、知らない人と議論するのが思いのほか楽しかった。各自が考えを付箋に書いてから話すので、考えをまとめた上で話す方法がよいと思った。

(小森義史委員)

- ・ワークショップに参加した。活発に意見が出たので、計画書の資料編にその内容を入れてほしい。また、プロジェクトについては計画のどの部分に反映されたかをわかるようにしてほしい。

(香村恵介委員)

- ・ワークショップに参加したが、同じ時期に開催されていた別のワークショップの方が多くの参加者がいて、多様な世代であった。こちらのワークショップは年代が偏っていたので、多様な世代が入る工夫が必要である。

(伊藤朝野委員)

- ・ワークショップに参加したが、子どもの参加がなかったのが残念。今後は子どもも参加するようにしてほしい。

(野村富雄委員長)

- ・他にご意見がないようであれば、議題(1)作業部会(ワークショップ)の結果について了承される方は、拍手をお願いしたい。

～委員拍手～

(2) 計画の骨子案について

- ・事務局より、骨子案の概要について説明を行った。
- ・次いで、委託業者より骨子案について説明を行った。

(小森義史委員)

- ・10月の第5回委員会ではパブコメ案の承認になり、次回の第4回が計画内容を議論できる最後になるので、早めに資料を送ってもらい、意見を出させてもらい、市の回答をもらえるようにしてもらえるとありがたい。
- ・学校教育プランでは「コミュニティスクールと地域学校協働活動」が記載されており今後取り組んでいくと思う。生涯学習推進計画との関係がわかるとよい。

(深谷真弘委員)

- ・アンケート結果から課題が書かれているが、例えば「きっかけがつかめない」という課題について、なぜかという深掘りした調査結果があれば、効果がある取組が考えられる。

(事務局)

- ・「きっかけがない」は複数の選択肢の一つであり、その理由まで深掘りする設問は設定していない。

(大見サキエ委員)

- ・「地域や学校、多様な主体との連携」について、コミュニティスクールの取組とどのように連携していくかに関心がある。
- ・プロジェクトを計画に位置付けるにあたり、基本方針等と関係づけて掲載してほしい。
- ・スポーツに関して、身体を動かすだけでなく、健康やウェルビーイングにつながるということ啓発すべきである。

(伊藤朝野委員)

- ・支えるスポーツについて、中学校の部活動の運営支援では指導する人をどう集めるかが課題となる。さらには、指導者が知識を得る場所がないと、機会が与えられても自信を持って引き受けることができないこともある。

(事務局)

- ・安城市では、指導者養成講習会は開催しているので、積極的に参加していただきたい。

(伊藤朝野委員)

- ・現在行われている講習会は、種目に関わらない内容になっているが、部活動の支援を行うためには、種目に応じた内容で実施してもらう必要がある。

(事務局)

- ・部活動の活動支援は、地域のクラブにお願いしている。保護者グループが支援していくことも予定している。

(深谷真弘委員)

- ・国の施策でも様々な分野でデジタル化が進められている中で、自治体だけでは対応できないこともあるため、企業と連携して取り組めるようなものがあるとよい。企業側も社会貢献をしたいと考えているし、人材の活用や、企業のグラウンドや会議室などを活用することも考えられる。

(香村恵介委員)

- ・人づくり、つながりづくり、環境づくり、という柱は良いと思うが、つながりづくり、環境づくりは少し気になるところがある。
- ・課題8「市民同士のつながりの創出」については、市民同士はもちろん大切だが、支える

側のつながりとして、自治体の様々な部署で連携することが考えられる。情報提供などで他の分野とつながることで、例えば図書館でスポーツに関心がある人向けの情報を発信するなど、普段アプローチできない人に伝えるための部署間の連携が重要。指導者同士のつながりにも波及できるとよい。

- ・課題11「アジア競技大会の機運醸成・レガシーの創出」は、特化しすぎと感じる。アンケート結果でもトップスポーツを観戦することは実施することにつながっていないように考えられる。「みる」スポーツについて第2次スポーツ振興計画で10年間取り組んできたはずだが、ニーズや認知度が高まっておらず、大会の誘致で予算はかけているもののコストに対する効果に疑問がある。「多様な関わり方の推進」のようにして、その中に「みる」を入れる程度が良いのではないか。
- ・支える側のつながりに企業が入ってくるのはよいと思う。
- ・「環境づくり」については、ハード面とソフト面で課題を捉える必要がある。ハード面へのニーズとしては体育館や温水プールよりも「気軽にスポーツができる場所」である。新設ではなく、今ある道が歩きやすくなるような工夫などが入ると良い。
- ・運動・スポーツができなかった理由として「仕事や家事で忙しい」が多いが、生涯学習やスポーツに充てられる時間を創るために、企業において子育て世代などが時間を作ることができる取組をしてもらえるとよい。忙しい日常生活の中で、はじめやすく、続けやすい時間づくりといった視点が入ってくると良いと思う。

(神谷有弘委員)

- ・スポーツ推進委員について、知名度向上という文言があるが、知名度向上自体が目的になるのではなく、推進委員が、地域の皆さんがスポーツをするための機会を提供する、という表現であるべきと思う。
- ・中学生日曜教室という事業が行われているが、スポーツ推進委員が土日に体育館を借りようとしても、先に日曜教室で抑えられていて使えないことも多いので、平日をどのように活用していくかも考える必要がある。
- ・企業との連携について話も出ていたが、以前は地元企業が施設を貸してくれていた場所がコロナ禍以降貸してもらえなくなり、それがまだ回復していないところもある。市の方から企業に働きかけをしてあらためて利用させてもらえるようにできると良い。
- ・現行計画の体系図と次期計画の体系図の対応する番号の確認をお願いしたい。

(香村恵介委員)

- ・体系はいつ確定されるのか。計画の中で、作業部会で検討したプロジェクトは、その内容が反映されていることをわかりやすく記載してほしい。

(高山智子委員)

- ・産官学が連携して考えていく必要がある。ワークショップのプロジェクトも具体的に進めてもらえるようお願いしたい。会議に参加している各主体が連携してやってみようというものを、具体的に示してもらいたい。

(野村富雄委員長)

- ・他にご意見がないようなので、骨子案について了承される方は、拍手をお願いしたい。

～委員拍手～

(野村富雄委員長)

- ・以上で本日予定していた議題は全て終了した。

(事務局)

- ・助言者（アドバイザー）から、議事についてご意見をいただきたいと思う。

(助言者)

- ・骨子について議論が必要であると感じている。
- ・計画の名称について、生涯学習・スポーツと並べるのがよいのか。生涯学習の中にスポーツが含まれるという認識である。
- ・背景の中でこども基本法の記載があるのは良いと思う。こどもを基本としたまちづくりをして、こどもの権利を基盤として、こどもも大人も活動しやすくする。グローバル化については、多文化の視点で外国をルーツとした市民のニーズも一緒に取り込んでいく。
- ・義務教育法に基づく夜間中学校への対応も必要かもしれない。国の調査でも学び直しをしたいというニーズは一定数あった。
- ・環境の変化としては、地球温暖化もある。熱中症対策により身体を動かす場がなくなり、体力低下が生じている。体育館へクーラーを付けたり、プールに日陰を付けたりする必要がある。
- ・人生100年時代について記載があるが、高齢化との関係ではなく人生設計が変わっていくという流れで捉える必要があり、高齢者だけでなく、セカンドライフを自分でみつけることが重要であるということ。
- ・課題として、コミュニティスクールを地域の学習の拠点として位置付ける。市民の居場所、サードプレイスにもなり得る。
- ・安城市の公民館利用率減少の原因や、地域組織の活動縮小に伴う公民館の機能低下に対処するための方策を探る必要がある。また、コミュニティ・スクールが地域づくりにどう貢献するか、他の市民活動拠点との連携も重要。これらを計画に中で示す必要がある。

- ・コミュニティスクールは、大人が育つ学校であり、公民館などとのようにつながっていくかも考える必要がある。
- ・子どもや中高生が地域の中で活動していく場所があるか、という視点の中で、公民館などの役割を考えて地域の拠点づくりをしていくことが重要である。

4 その他

- ・次回の策定委員会は令和7年8月21日（木）午前10時から開催予定。
案内は改めて送付させていただきます。

以上